

# アユの伝染病防ぐ善玉菌

全国的に漁獲量が減っているアユの伝染病に、自然界から発見した善玉菌が効くことが分かった。宮崎大学の前田昌調・名誉教授（微生物学）が養殖業者と取り組んだ実験結果を24日、宮崎県庁で発表した。前田名誉教授は「病気に強いアユの稚魚を放流することで、河川に強いアユが増えていく可能性がある」と話す。

善玉菌は約5年前に前田名誉教授が県内の湧き水から発見した「シユウドモナス菌MS-1株」。すでにミツバチの伝染病

## 漁獲量減らす冷水病

### 宮崎の養殖業者、効果確認

を防ぐ抗病原菌・抗ウイルス作用が確認されている。今回、アユのエサに混ぜて与えたところ、伝染病の冷水病にも効いた。

農林水産省の統計によると、全国の河川などでのアユの漁獲量は1991年の約1万8千トンをピークに2010年は約3400トまで落ち込んでいる。主な要因の一つが、冷水病だ。感染すると体表に穴があいたり、皮膚がはがれたりして死ぬアユが多く、漁業に深刻な影響を与えている。前田名誉教授による

と、スルフィゾールという薬があるが効果は低く、投与すると出荷が制限される。

年約450万匹の稚魚と約50万匹の成魚を全国に出荷している養殖業の「あゆの是則」（宮崎県日向市）で昨年12月から、液体状の善玉菌をエサに振りかけ月2回与えたところ、成魚になる過程で毎年1〜2割が冷水病で死んでいたのが、今年は1匹も発症していないという。同社によると、2割の10万匹が死ぬと、約800万円の損失になる。是則社員社長は「アユは内臓まで食べる魚。薬を使わずに発症を抑えられるなんて」と話した。

（張守男）